

平成 28 年生駒市議会（第 2 回）定例会 記者会見

平成 28 年 2 月 26 日（金）10 時～11 時 30 分

（質疑）

記者 こども医療費の助成は県の枠組みより拡充するのか。

市 自己負担金 1000 円負担が前提で県は支援していただいております、生駒は 500 円ですので、その差額の 500 円分は市でやっています。

記者 追加負担分は市の予算でどれくらいか。

市 平成 28 年度は前年度に比べまして 9000 万増、8 月診療分からの反映なので通年ベースは 1 億 3000 万程度の増額です。実質の市負担増は約 500 万円程度です。

記者 県は 1000 円の負担で、市は 500 円の負担で少ないということですね。市の負担は 500 万円ですね。8 月からか。

市 そうです。

記者 そういう市は他にあるのか。

市 県内の市では、12 市ございますが、そのうち 8 市が 1000 円、生駒を含めて残りの 4 市が 500 円です。

記者 生駒市以外ではどこの市が 500 円か。

市 五條・御所・葛城市と聞いております。最終確認した段階でございます。実際上程されているかは確認しておりません。

記者 市民投票システムの予算が入っているが、市民投票システムの整備で条例の施行時期は決まったということか。

市 3 年以内に施行となっているので、まだ決まっています。

記者 高齢者の交通費助成というのは、今年も一律助成をこのまま続けるということか。

市 今年度は何か変えるということまで議論が熟していませんので、28年度は従来と同じような形でお渡しするということになると思います。

記者 当然、タウンミーティングは続けていくのか。

市 タウンミーティングというかたちにはこだわらず、違う形かもしれませんが、見直しをします。廃止ではなく、見直しですので、廃止と書かれて困っているんですが。見直しについて、具体的にどのような形がいいのかをしっかりと考えて、タウンミーティングはどうか分かりませんが、市民の方から意見を聴くこともあるでしょうし、いろんな調整をやっていききたいと思います。

記者 見直しの方向性はもちろんそのままか？

市 はい、それはタウンミーティングでしっかりお知らせしています。

記者 部活動の支援事業を具体的に教えてください。

市 具体的には、卓球なら卓球、テニスならテニスと、主に市内でも総合型のスポーツのクラブができたりしていますので、まずはそういうところから、競技の指導に長けた指導者にきていただいて、たくさんはできませんので、学校から手が上がったところから、うちの何々クラブで先生をお願いできないか、みたいなところを取りまとめて、指導者の方に実際行っていただき、指導していただくようなかたちです。もちろん子どもたちへのより専門的な指導も可能になると思いますし、その部活動指導に対する負担の軽減にもなると思います。そのあたりをしっかりとやっていきたい。

記者 全部外部に委託するとか、そういうことではないのか。

市 違います、どちらかというと一部です。

記者 中学校4校にそれぞれ手が上がれば、一人いくということか。

市 4校のうち、たぶん全部のクラブということではなくて、4校で4種目ということが原則だと思いますが、4校ぐらいで募集すると考えています。

記者 いこま国際音楽祭は名前残して、クラシックの枠組みはとるという趣旨で理解してよいのか。

市 中身はまだですが。名前は仮称になっているんですけども、名前もどうするかということもありますし、クラシック（の枠組み）をとるということもまだ決まったわけでもありません。いろんな音楽イベントがあるなかで、プロフェッショナルな音楽を中心にやっっていこうと思っています。詳細についてはまだこれからということです。いこま国際音楽祭っていうのは、今までやっていただいた部分のいい形では当然引き継いでいくことになります。名称もそうですし、クラシックというのも配慮してするかそういうこと決めただけでもないですが、クラシックがベースなのかなと思ったりもします。そのあたりはどのような音楽のジャンルにしていくのかとか、いろいろ入れていくのかは検討中です。

記者 ふるさと納税でグランドピアノと書いてあるが、去年もいろんなものがあつたと思う。今年度は大型のものは無かったのか。

市 今年度は分散してやっていますので、特に大きなものは無かったのですが、4000万円のグランドピアノについては、寄附を4000万近くの大口でいただいて、趣旨としてスタンウェイのグランドピアノをとということでしたので。

記者 ラムネではなくて、大口でいただいたのか。

市 その方が全部ではなくて、協賛される方も含めて4000万を集めてこのピアノを買うということですので、ここに記載しているということです。いままでもいただいて使っているんですけども、環境や教育などいろいろなところに分散していますので。

記者 希望先があるが、12月くらいに聞いたときは6000万くらいだったのが、それにプラス4000万ということか。ふるさと納税で1億ということか。

市 含まれていると思います。1億ではありません。
27年度で寄附はいただいているんですけども、使うのは28年度です。

記者 4000万円するピアノを買うのか？

市 ピアノは約2000万、保管庫、音響設備などが2000万程度です。

市 ふるさと生駒応援寄付の27年度の決算見込みで8300万ほどの見込みです。その中で、ピアノは2000万、音響反射板が約1000万、たけまるホールの改修費が500万、ほかもろもろで、ピアノ関係で4000万ということです。残り4300万は、無電極放電ランプや小中学校のタブレットや電子黒板、金鷲の杜のトイレの洋式化などに使っているのですが、スタンウェイのピアノについては額が大きいのので記載しています。

記者 大口があったのか？

市 その方は4000万円弱の寄附です。

記者 その方が音楽関係でと指定したということか。

市 はい。

記者 寄附がないピアノは予算に組み組み込まれなかったということか。

市 はい。

記者 寄付がなかったら、そのほかのタブレットとかは予算化しなかったのか。

市 他のタブレットは寄附が無くてもやりますが、それを財源にあてて行うということです。4000万が市の歳入になると、歳出が4000万助かるということです。とくにこういうふうな使途でと指定されるのは、今回が初めてかもしれません。

記者 大口だから、ラムネとかそういうものの一般的なふるさと納税とはこれは違うわけか。

市 おっしゃるとおり、一般の方が1万・2万でされるのとは、若干ニュアンスが違います。

記者 先ほどの医療費助成ですが、市が500円の負担をしないと仮定すると、年間予算は500万円減ったということか。

市 そうです。

記者 それぞれの自治体が、負担額をどうするか個別に判断しているのか。

市　そうです。

記者　500円と1000円に分かれたということですか。例えば0円にするという選択肢は無かったのか。

市　0円にするという選択市は無かったです。物理的には可能ですが。市の負担が重いし、0円にすれば、いくらかかってもいいことになるので。生活保護とかは別ですが。

記者　0円のところも京都では200円のところもあるが。

市　考えるオプションとしては200円もあると思いますが、200円と0円ではだいぶ意味が違うと思いますし、200円と500円選択肢がないのではありませんが、生駒としては500円です。

市　就学前であれば、一部負担が0円なのは県内で1市です。

記者　4市が話し合ったわけではないですよ。住んでいる市によって、金額が違うのはなぜかと思います。たとえば、登美ヶ丘であれば、奈良市と生駒市の人が近くに住んでいるわけでしょう。生駒市は500円で奈良市なら1000円でしょう。地方創生ということで、生駒の戦略ですね。

市　生駒は子育て支援をしているので自己負担500円で行っています。

記者　一般会計の総額で対前年度比となっているので、補正も入っていると思うが、補正なしの当初のみで比較することはできるか。

市　昨年度が3月骨格予算のため、投資的な経費が抜けていることもあって、6月に肉付けしたため、それで比較しています。平成27年当初の金額は351億8200万です。385億6600万円との比較ということです。こちらとしては、肉付けしたもので紹介します。

記者　積極予算となっていますが、新規事業もたくさんある中で小紫カラーはどこに出したとお考えか。

市　新規はこれまで説明した全部がそうですが、住宅都市の魅力としては、一つは子育て・

教育を発展させていくこと。二つ目は、5年後、10年後を見据えた産業振興ビジョンの推進、3つ目は高山第2工区です。

記者 防犯カメラの設置事業は、50か所108台だが、全小中学校と、市の管理施設も全部か。

市 全部です。例えばコミュニティセンター、体育施設、大きな公園です。小中学校20か所、幼稚園保育園など必要なところ。その他生涯学習施設、コミセン、たけまるホール、スポーツ施設、北大和であったり総合公園、自転車駐輪場などで50か所です。基本的には小中学校は全て入っています。どこでもということではなくて、職員にも見てもらって、安全性に問題のあるような所の絞り込みはしています。基本的には特殊事情の所には、全部入っています。

記者 警察とかと連携して、過去に犯罪のあったところにつけているのか。

市 警察から来ている職員に聞いて、安全性に問題のあるところとか絞り込みはしています。防犯上今までなかったというところは加味しているところもあると思いますが、死角になりやすい所、校門などの出入口につけていきます。

記者 小中学校だと正門と裏門か。

市 基本的には門のあるところ。1~5カ所の設置です。学校の構造によります

記者 小学校1・2年生英語教育の実施というのは県内で実施しているところはあるのか。

市 多くはないと思うのですが、生駒だけではないと思います。今は3年生以上でやっていますが、ALTの先生とかにきてもらうというのを1・2年生まで拡大するという事です。

記者 タブレットや電子黒板も今まで生駒ではやっていなかったのか。

市 特別支援とかが必要な児童と、入院しながら学んでいる子どもには提供していました。特別支援が必要な子どもを教えている教員を中心に、こういった活用をしたらいいのかの講習をしていました。これからは普通教室の子どもにも広げていく。

特に ICT については全国的にも手探りなので、教育委員にも入ってもらって、何ができるのか、効果的な事例を検討して、来年度以降の予算にどう反映させていくのかななどを、実験的に試行していきます。

記者 モデル校はどこか。

市 これから手を上げてもらいます。

記者 教育委員が増えて反映されたことはあるのか。

市 英語教育や ICT に詳しい人もおられますので、どういうふうにするのが効果があるのかを教育委員に入ってもらって 1 年くらいで検討していきます。そういう意味では、教育委員が増えたことはプラスです。

記者 北大和グラウンドの関係はどのような扱いにされるのか決まっているのか。

市 まだ完全には決めていませんが、県から文書も来ていますので、市役所、住民、事業者のなかでしっかりと話を聞いて、あまり時間をかけずにしっかり考えていかないといけないと思っています。現時点では考えていません。当初予算には計上していませんので、調査を進めていきます。

記者 グラウンドの仮に 3 月まで使えるようになっていますが、4 月以降も継続することか。

市 仮の形で使っていきますが、その後、グラウンドとしてどうするのか、これらについてもこれから決めていきます。今までの使用を完全にやめるということは、今のところ考えていません。

記者 相手側の近鉄は了承しているのか。

市 それも含めて、近鉄と地元自治会と協議していきます。

記者 UR の財産取得ですが、議案第 42 号が可決されたら、同時に契約になるのか。

市 可決されたら仮契約が本契約に自動的になります。

記者 何かセレモニーはあるのか。

市 想定しておりません。

記者 北大和・高山第 2 工区の関係で、前市長がフェイスブックやブログで意見を表明していますが、何かコメントはあるか。

市 前市長が UR の土地の取得についての交渉を進めておられましたが、基本的にはその流れを受けて、前市長の時代からそのままの形で放置しておくのは問題があるということで、UR の土地の取得も含めて調整していたということだと思いますので、その流れも含めて、引き継いで一つの形になったと私は思っています。18 年のころからのそういう経緯もあるので、そういうことは前市長にあるのかもしれませんが。私としては、現状放置しておくことによるデメリットの前市長の最後の方の流れを引き継いだ形で、今回前に一歩動かしている、そういう認識です。